

乗鞍岳 前川本谷～北アルプスで沢から百名山～

【報告者】H田

【日時】2019年10月15日

【天候】霧のち晴れ

【参加者】H田 ほか会員外

《コースタイム》

6:13 東大ヒュッテ入口バス停→6:23 東大ヒュッテ→入渓地点→二俣→13:28 高天ヶ原→14:30 剣ヶ峰→肩の小屋→15:54 畳平 (終了)

16:30 畳平バス停→(バス移動)→17:10 東大ヒュッテ入口バス停

《 報 告 》

当初の予定では、10月12日に福岡を発ち、13日から15日まで谷川山系で日帰りの沢を3本遡行するはずだった。ところが、この時期に過去最強クラスの台風19号が関東地方を襲うとニュースが言う。台風発生してしばらくは、大げさ過ぎると思えた報道も、台風が近づくにつれて冗談じゃない規模だと分かった。谷川岳は危険が大き過ぎる。東北も危ない。メンバーとLINE会議で決めた山域は、鉄壁の北アルプスだった。公共交通機関の計画運休の情報が早々と出され、12日に移動するのは首都圏から来るメンバーも九州から向かう私も無理だと分かったので、13日に移動して長野県の安曇野にあるキャンプ場に集合し、14日と15日で日帰りの沢を2本選んで計画書を出した。

12日(土)。夕方からテレビにかじりつき、台風のニュースに釘付けになる。予想以上の被害に、本当に現地へ行けるか心配しつつ、状況を見守る。

13日(日)。台風が過ぎ、始発から新幹線が動くと言われたので、すぐ家を出た。しかし、JR東日本の在来線は運休や不通が多く、名古屋から松本へ電車でアクセスするのは無理だった。高速バスに期待しアルピコ交通に電話で問い合わせると、大阪から松本、白馬などに向かう便は、運行再開すると言うので、その場で予約し大阪へ向かった。551 蓬莱のシュウマイを手土産に、松本に向かう。首都圏から来るメンバーは、所々で高速道路が不通となっていたらしく、通常の倍以上、車で8時間ほどかかったそうだが、無事に安曇野のキャンプ場で合流することが出来た。台風の翌日だったが、人気のキャンプ場らしく、車は20台ほど停まり、スノーピークなどの大型テントが何張りも張られていて、シルバーウィークらしく賑わっていた。こちらも焚火と美酒で明日に備えた。

14日(祝)。北アルプスの有明山にある中房川曲沢に行く計画にしていたが、夜中から予報に反して雨が降り、明け方も小雨が降ったり止んだりの天候になった。リーダー曰く、「このルートだと沢の途中でエスケープ出来る場所がないから、別のところを探そう」。そして選んだ沢は、美ヶ原の焼山沢という、登山道沿いの短い沢だ。以前、シーズンオフにグループLINEで話題に上がったことがあり、いつか行きたいと思っていたところだった。テント場を撤収し、美ヶ原へ向かう。ところが、途中の有料道路が途中から通行止めで、迂回した一般道も30分ほど走った後で通行止めになっていた。ここまで来て…、と引き返そうとした道路の脇はアカマツの林だったので、負けを認めてキノコ狩りに転身した。分け入った林は見事なまでに手入れされ、マツタケはもちろん、美味しいキノコはほぼ採られているらしく、生えているのはドクベニタケなどの食べられないキノコばかり。完敗…！他の沢への転身を考えつつも、なかなか天気が回復せず、河川の流況を車越しに確認しながら次の目的地へ向けて移動するしかなかった。河川の状況はというと、未だ濁った水が流れているところもあれば、澄んでいるところもあり、水系によって違った様子だった。この日の宿泊地である乗鞍高原に着くと、小雨にもかかわらず観光客もいて、台風の被害はさほど感じられなかった。夕方になって雨は止み、明日こそ予定どおり遡行できますように、キャンプに來ただけで終わりませんように…と願いつつ、2日目も焚火と美酒をそなえた。

15日(火)。AM3:00。リーダーがテントから飛び出す。「雨だ!」。少し不安がよぎるが、未だ早い。

起床時刻のAM5:00。雨はほぼ止み、予報を確認すると、次第に太平洋高気圧が張り出し回復する見

込みだった。さっさと撤収して入渓地へ向かう。

この日の予定は、乗鞍岳に詰める「前川本谷」だ。書籍やインターネットからダウンロード出来る遊行図はないが、検索すればブログなどで遊行記録がある。東大ヒュッテ入口のバス停付近には、わりと広い駐車スペースがあり、そこで装備を整える。霧が出ていて、寒い。この地点で標高は約 1,600m。最高地点は剣ヶ峰 3,026m。標高差およそ 1,400m は、日帰りの沢では考えられないが、ここは乗鞍。日本一標高が高いバスターミナルがある場所だ。肩の小屋まで行けば、シャトルバスで下山が可能なのだ。ただし、バスの本数は1時間半から2時間に1本しかなく、肩の小屋の外でずっと待つのは寒いので、バスターミナルの建物がある畳平からバスで下山する計画とした。下山のバスは 15:00 か 16:30 だ。



バス停から東大ヒュッテまでは、手入れされた散策路になっていて、歩きやすい。それからしばらく歩くと林道へのゲートがあり、越えてしばらくすると入渓地点の橋に着いた。この地点で標高約 1,700m。先は長い。入渓してしばらくは、緩やかなゴロ歩き。紅葉が進みつつある木々が美しいが、霧がなかなか晴れない。水に浸らないように歩いたが、時折足先が濡れる程度だと、ネオプレンの靴下が効いてそれほど冷たくは感じなかった。

最初の二俣、標高約 1,800m の地点で、目の前に巨大な大滝が現れる。この滝を見るためだけに訪れている記録もある。50m 級の滝らしい。とても登れる代物ではなく、巻道に向かう。コマツガの針葉樹の藪で、掴みながら登れるが、高度感はかなりある。これを高巻きしたところで沢に降りようとしたら、更に登れそうにない大滝が現れたので、戻って再び高巻く。この2つを越えるだけで、約1時間かかった。

大高巻きから沢に降りるところで、キレイな紅葉が現れた。その先、また現れた大滝を巻くと、ナメ滝が出てきた。全体的な印象として、登れる滝もいくつかあるが、直瀑の大滝や滑りやすい岩場の滝など登れない滝も多い。登れる滝も、流心しか登れないようなものは、まだ霧に包まれ気温も上がらない中では水が冷たく、指を晒したグローブだと手低体温症になりそうだった。どちらかという、巻道の方が核心で、崩壊が進む岩場をうまく回避できたのも、毎度滝の水落口に迷いなく降りることができたのも、リーダーの絶妙なルートファインディングのおかげによるところが大きかったと思う。

標高 2,200~2,300m を過ぎた辺りだったのだろうか、季節外れの落とし物、スノーボードを発見！ 事前に参考にしてた4年前の記録にあったものと同じものだった。ちょっと休憩して遊んでみる。よく見ると、他にも冬用のグローブなどが落ちていた。崩壊しつつあるようなこのゴルジュの先で、水がなく

なった。目指す剣ヶ峰は、まだだいぶ先だ。

その先は、所々に流れが出る程度の涸れたゴロを登っていく。幸い、霧が少しずつ晴れてきて、紅葉が見頃な位置に差し掛かり、景色を楽しみながら歩くことができた。

標高 2,600m 辺りから、剣ヶ峰が見えはじめる。左手には高天ヶ原も見えてきた。勾配がきつくなり、目の前には延々とガレガレのゴロが広がる。標高 2,800m 辺りからは、もう持久戦のような感じになった。普段人が歩かない、傾斜のきついガレ場は、1 歩足を出すとズルズルと滑り、次の足もまた滑る。ガレ場を避けようと緑地に行くと、そこはハイマツ帯で容易には歩けない。なんとか剣ヶ峰まで残る標高 150m 程度まで行ったところで、時間に余裕があったので、少し降りて高天ヶ原に寄ってから剣ヶ峰に登るルートに変更した。高天ヶ原は山頂標識もなく広いだけだったが、そこから剣ヶ峰に詰めるルートは、大日岳(奥の院)との間の鞍部が美しく眺められた。剣ヶ峰からは、一般登山客に混じって壘平のバスターミナルまで歩いた。留守宅の S 田さんにメールを入れて、バスに乗り込む。長い下山を歩かずバスで降りれるなんて、楽チンだ。1,500 円で手に入る贅沢である。シャトルバス、ばんざーい！



最初の大滝



2つ目の大滝



紅葉と滝



沢ボーダー



紅葉がキレイ



剣ヶ峰が見えた



ガレッガレの急登



高天ヶ原



大日岳(奥の院)と剣ヶ峰



剣ヶ峰から肩の小屋へ



壘平



下山のバスターミナル